

歴史息づく道 カレンダーに

商大生・落合さん 色内大通り発信

小樽商科大の学生が市内色内地区を貫く色内大通りの歴史的建造物の写真を撮影し、カレンダーを制作した。経済学科4年の落合亮さん(26)が資金集めから撮影デザインまで一人で手がけ300部発行。落合さんは「歴史が息づく色内大通りの魅力を発信したい」と話す。(西依一憲)

カレンダーはA4判カラ 通りに面した旧日本郵船小樽支店、田中酒造本店、旧一ツと曆のページを見開き 第四十七銀行小樽支店、旧塚本商店、旧三井銀行小樽



自作のカレンダーを手にする落合さん。7、8月の曆には、そば店や和菓子店が入居する旧塚本商店(色内1)の写真を添えた

協賛金集め300部発行「観光客の動線に」

支店、旧越中屋ホテルの6施設を収録。それぞれ由来を紹介する文章を付けた。

色内大通りは鉄道の起点の手宮地区と旧銀行街をつなぐ市道本通線の通称。手宮側から旧銀行街をさらに進むと観光客に人気の堺町通り商店街へつながる。

札幌出身の落合さんは大文学入学後にカメラを始め、「授業をサポートして街をぶらつき、歴史的建造物を撮るうちに小樽の街が好きになった」。フリーペーパー「小樽チャンネルマガジン」で歴史的建造物を紹介する欄の写真も担当。趣味と編集作業を通じて色内大通りの奥深さを知り発信したいと考えた。制作費は色内大通り沿いの経営者有志でつくる「色内復興会」の会員から協賛金を集めて賄った。

落合さんは色内大通りについて「古い建物を生かしたホテルや新たなビジネスが次々生まれている注目エリア。歴史の重みと魅力が再認識され、堺町から手宮方面に観光客が向かう動線になれば小樽はもっと盛り上がる」と話す。1部500円(参考価格)。問い合わせは落合さん(asonaso10818@yahoo.co.jp)へ。